

医学用核及び原子分子データのリクエスト調査  
のための ad hoc 委員会第 2 回会合議事録

日 時 昭和 56 年 12 月 7 日 (月) 11:00 ~ 14:00  
場 所 原研本部 第 7 会議室  
出 席 者 原田(委員長, 原研), 浦橋(日大医), 織田(東工大),  
尾内(癌研), 喜多尾(放医研), 塚田(日大原研), 久武(東工大),  
宮永, 更田, 沼宮内, 五十嵐, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回議事録(案)
2. アンケート調査集計報告
3. アンケート用紙

原研宮永理事からアンケート調査への協力について感謝の挨拶があった。

I 議事録確認

資料 1 により前回議事録の確認を行った。

II 議 事

1. アンケート調査の経過報告(浅見)

6月4日幹事会を開いてアンケート項目の原案を作成した。その後アンケート項目についての調査を行い、それを基にしてアンケートを作成し、8月20日に257名に発送した。回答〆切を9月25日にしたが、その後も回答してくる人があり、11月4日までに154名が回答してくれた。回収したアンケートを幹事の喜多尾氏に依頼して集計してもらった。

2. アンケート調査集計報告(喜多尾)

資料 2 により報告が行われた。

回答 154 の内容は有効回答 127, 白紙回答 27 である。有効回答の 2/3 はデータの現状を不満としている。回答率 60%強は高率とのことである。

資料 2 を基にして報告書を作り, 原研の刊行物として印刷し, 協力者及び関係各方面に配布する。

また, この結果を IAEA に報告する。

喜多尾氏の報告について以下のような質疑応答が行われた。

- medical installation, others の others は何を指すか？
  - 医学, 医療機関, 医療用 RI 製造機関以外を指す。
  - 今回の調査では薬学関係は対象にしていない。
- Eu, W のデータはどこからの要求か？
  - 広島, 長崎の原爆からの線量を再検討するために, Eu の放射化を調べているグループからのものである。
- 利用できるデータがあることを知らずに要求を出している場合があるようである。データソースを知らせる必要がある。
- どんなデータが使われているかを知りたい。
- データを利用している機関名を具体的に挙げる方が良い。
- dosimetry など, 量の定義を明示する方が良い。
- 各機関が使っている資料が判ると良い。
  - 報告書では分類して示す。
- 報告書には集計の際に気付いたことなどをコメントとして付けることにしている。
- メーカーにはアンケートを出さなかったのか？
  - 出さなかった。
  - 出した方が良かった。
- 報告書は日本語で書く。図は英語にする。
- IAEA への報告は別途作成する。
- 利用できるデータの一覧表をつけ, 入手できる所を示す。
- 報告書を送付する学会の分類をする。

これらの意見を基にまとめるに当たって次の点を修正することを確認した。

- Fig. 3 (b) を機関別に分類する。
- dosimetry に注釈を付す。
- 要求のグループ分けをする。
- アンケート対象者(257名)の所属学会分布を示す。

electron と positron との扱いの違いなどの問題にふれる。

### 3. 今後の進め方

シグマ研究委員会の運営委員会にはアンケート調査を行っている所までの報告きりしていないので、今後医学用核データをどう扱っていくかは未定である。しかし、この ad hoc 委員会の意見は聞いておきたいという委員長の発言があり、各委員から今後の進め方について以下のような発言があった。

- アンケート調査は続けた方が良い。やり方を改良して行くことが望ましい。
- データ集のようなものを作るとか、データソースを知らせるとかの活動が必要。
- データ活動を放医研でやらなければ原研でやることが考えられる。  
— 原研と放医研との理事の懇談会が12月10日に行われるので、その時に話を出しても良いとのことである。
- シグマ研究委員会に医学用核データ検討のワーキンググループを設置する方向で考えても良い。
- 日本医学放射線学会の物理部会でもデータ収集の計画があるが、直接的データが中心となるのでその基礎となるデータの収集をやって欲しい。
- 外国の原子力研究所には biomedical のブランチがあるが、日本では役所の立割りのために原研にはない。
- 原研ではこの分野の専門家が少いので協力してもらえなければやれない。
- 医学放射線学会の物理部会はWG作業に協力できる。
- WG ができれば、アンケート調査もより有効に負担を軽くやれるようになる。

委員長より、これらの意見を12月11日のシグマ研究委員会の運営委員会に報告するとの発言があった。